

情報通信審議会 情報通信技術分科会
陸上無線通信委員会 基幹系無線システム作業班（第5回）議事録（案）

1 日時

平成 26 年 7 月 3 日（木）10：00～11：00

2 場所

総務省 第 1 特別会議室

3 出席者（敬称略）

主 任 唐沢 好男

構 成 員 飯塚 正孝、伊藤 泰成、井野 年勝、植田 和典、江場 健司、
岡田 良教、小山 祐一、笥 雅光、川上 明夫、佐藤 英樹、
重野 誉敬、鈴木 健児、渡来 祐一、中川 永伸、拮石 康博、
平川 洋、福本 史郎、藤井 康之、松田 和敏、村上 信高、
山崎 高日子

オブザーバー 川村 雅彦

事務局（総務省） 森基幹通信課長、中越課長補佐、下地係長、結城官、権田官

4 配付資料

基幹班 5-1 6.5/7.5GHz 帯可搬型システムの導入等について

基幹班 5-2 マイクロ波固定通信回線の高効率化に関する技術的条件の検討

参考資料 1 「基幹系無線システムの高度化等に係る技術的条件」に関する調査の進め方（案）

参考資料 2 アドホックグループの設置について

5 議事概要

(1) 6.5/7.5GHz 帯可搬型システムの導入等についての検討

事務局から資料基幹班 5-1 に基づき説明が行われ、川村オブザーバーから資料基幹班 5-2 に基づき説明が行われた。

○村上構成員

資料基幹班 5-1 の内容について基本的には賛同であるが、「6.5/7.5GHz 帯可搬型システムの導入並びに 6.5/7.5GHz 帯基幹系システムの高度化の検討について」検討を行う際は、既存の無線局に対して混信を与えないようにしていただきたい。混信が起きないのか検討を行う際には、受信点の一番近いところで行う必要があるのではないか。臨時の使用であるため、人的ミスにより混信が起こる可能性があり、その点も含めて運

用の検討を行っていただきたい。また、今回検討対象としている 6.5/7.5GHz 帯可搬型システムについて、臨時運用を行う時期、運用形態、移動範囲について教えていただきたい。

○事務局

利用方法としては、災害発生時に被災地において持ち運んで固定的に運用することを想定している。免許の形としては陸上移動局となる。移動範囲、チャンネル配置等については、今後作業班で検討を行ってまいりたい。また、技術試験事務の際にもご意見いただきましたとおり、既存の固定システムへ影響を与えないように運用も含めて検討してまいりたい。

○村上構成員

放送業務用の周波数帯に電気通信業務用システムを導入する際には、可搬型のシステムもあるのか。

○事務局

固定的な運用をするもののみである。

○唐沢主任

資料基幹班 5-2 の資料の中で可搬型の制作の考え方について、最初から、重量等の詳細を目標として定めていたのか。

○川村氏

詳細の目標については定めていなかった。

○事務局

人が持ち運べる事が出来る程度の重量を目標としていた。

○唐沢主任

重量について事前に 20Kg と聞いているが、人が持ち運べる仕様になっているのか。

○事務局

持ち運ぶことは可能である。

○井野構成員

可搬型を目標に装置を製造しており、今回製造した装置は分離することも出来ることから、持ち運ぶことも可能である。

○唐沢主任

資料基幹班 5-2 の P6 に「直交偏波」と「同一偏波」とあるが、直交偏波のみの利用と考えていたが、同一偏波も利用出来るのか。

○川村氏

基本的に利用するのは直交偏波であるが、同一偏波についても利用することが可能である。

○唐沢主任

資料基幹班 5-2 の P8⑤の「設置場所を制約しないような移動局回線への利用イメージ」

も含めて混信が起きないようにルール作りを作業班の中で検討していただきたい。

- (2) 「基幹系無線システムの高度化等に係る技術的条件」に関する調査の進め方について事務局から参考資料 1、2に基づき説明が行われた。
- (3) その他
事務局より、次回開催については、8月下旬の開催予定であり、提案募集の結果について報告を行う旨説明が行われた。

以上